

ResorTechは振興計画記載のデジタル関連諸項目を
横断的に俯瞰する、沖縄発の
デジタル化戦略でありマスターブランドです



振興計画素案に対する各種コメント

「我が国の均衡ある国土の形成に貢献」「我が国の経済・社会の発展に貢献」「我が国の持続可能な経済成長と社会経済の発展に貢献」「海洋立国日本の新たな発展に貢献」
知事も「沖縄の振興が国家戦略につながることを示した」と会見
「日本全体の発展に貢献」「日本をリードする」視点を強調

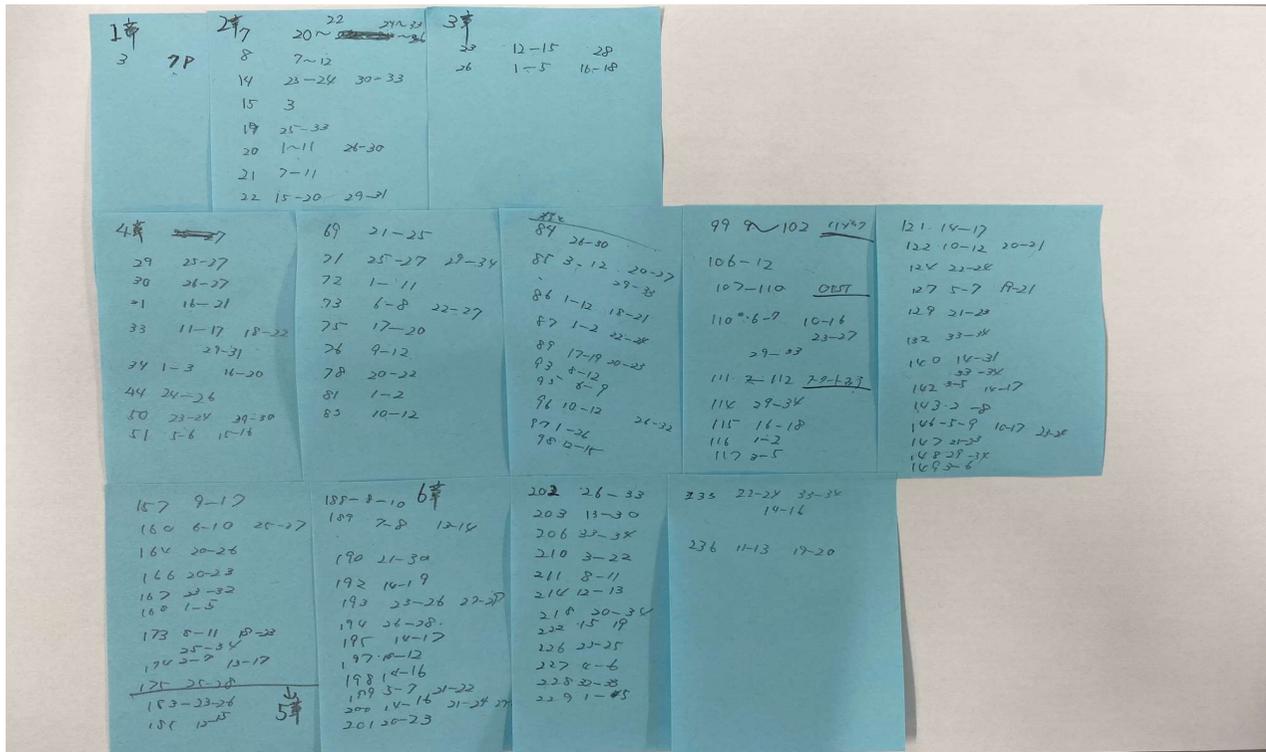
一方

沖縄県独自の発展構想が見えない
独自のビジョンや構想力が薄れた印象は否めない
沖縄県自身が何がしたいのかという軸が見えない
現行計画の焼き直しも目立ち、国の理解を得られるか不透明。
目玉がなくインパクトが弱い

素案をより良きものにするために、敢えて否定的な言葉の列挙を致しました。
そこに解決するアイデアがあると捉えていただきたい。

「日本をリードするために」 — 「沖縄は何ができるか、何をしたいか」見える化の必要性

振興計画素案にどれだけICT、DX、デジタル、イノベーションなど情報技術関連の言葉が使われているでしょう？



これだけ横断的に記載されており、重要性が理解できます。これらを単なる羅列とせず、まとめてアピールできないでしょうか？



振興計画素案の作り込みからは、横断的発想は生まれにくい。これは仕方がない。

すべての部署が情報技術が大切だと考えているので、それを列挙すると、総花的で、一つ一つが小さいものに捉えられる。

しかし総花 = 数は力の源泉。

より俯瞰的に見て、纏め上げブランディングする作業が必要。

内閣府沖縄振興審議会会長講演会よりー



株式会社日本総合研究所チエアマン・エメリタス 高橋 進氏

沖縄経済同友会 2021年7月12日

沖縄の成長戦略の視点

日本経済のブレークスルーはまだ遠い

沖縄の自立戦略とそれを支える基盤づくりの継続

沖縄の成長を支える基盤づくり

沖縄のデジタル化戦略を

自立につながる産業育成

グリーン戦略

インフラ整備のポイント

内閣府沖縄振興審議会会長講演会よりー



株式会社日本総合研究所チエアマン・エメリタス 高橋 進氏

沖縄経済同友会 2021年7月12日

沖縄のデジタル化戦略を

- ・ デジタル化の推進は、不利な条件を克服するばかりでなく、沖縄経済成長の自立戦略を支えるツールとなりうる。様々な産業分野で横断的にデジタルを活用できるだけでなく、まちづくり、離島対策等インフラ整備にも不可欠な要素に。デジタル化によって地方都市の課題解決を目指すスーパーシティにも挑戦すべき。
- ・ デジタル化をスピードをもって推進するには、その障害となる規制や制度的制約、慣行などを一挙に取り除き、改革していく必要。日本全体のデジタル化が他国に幸甚を拝するも、沖縄はデジタル化の最先端地域、デジタル化のモデル地域を目指すべき。
- ・ 県としてのデジタル化戦略を明確化し、全般的な規制の見直し、システム・手続き等の標準化、人材育成などを効率的に進めるべき。実証実験で終わらせず、デジタル化を地域社会・経済に浸透させるため、官民連携の下、県全体を特区にするなど思い切った施策に踏み込むべき。
- ・ 教育、医療分野のデジタル化でも日本を先導する取り組みを。



ResorTech
Okinawa
構想と合致

**沖縄らしさ、差別優位性、コンセプト、ブランディング、
力強さ、こうしたいという意思表示（つまりは高橋氏
が言うデジタル化戦略の明確化）これらが振興計画
には求められているのではないのでしょうか？**



ResorTech Okinawa構想は

沖縄の産業のDX化を目指す広い視座、
振興計画を幅広く俯瞰しています。

沖縄のデジタル化戦略であり
マスターブランドでもあります。

活用することで

「総花」から「戦略」に変え、沖縄の意思表示
を行いましょう。

ResorTech Okinawa 構想

(仮称) ResorTech Okinawa 構想
(素案)

令和3年3月

沖縄県

「③地元企業の競争力強化に向けたデジタルの横展開・輸出」について施策提言があった。
新たな沖縄振興計画においては、「リゾートテックおきなわの推進に「加価値化」を目指す方向としている。

人材育成、スタートアップ支援など、県が通年で実施する支援あらゆる業種で取り組まれる実証実験をはじめ、民間主体の取組とDX推進の取組を「ResorTech 365」として進めている。
活動成果発表の場として、同時に国内外のIT事業者と様々の場として、「ResorTech Okinawa おきなわ国際IT見本市」を

リゾート地における「社会課題の解決」と「持続可能な経済成長」の両立



図1 ResorTech のイメージ

基本目標

構想の基本目標は次のとおりとする。

(仮称) ResorTech Okinawa 構想の基本目標
情報通信関連産業の高度化・高付加価値化を図り、「稼ぐ力」を高め、観光業、農業、製造業、医療、交通など他産業との連携、共創による沖縄モデルのデジタルトランスフォーメーション、すなわち「ResorTech Okinawa (リゾートテックおきなわ)」を推進し、県内産業全体の成長に寄与する。

と位置づけ、「ResorTech Okinawa」を冠とした一連の事業・活動を展開し、効率的・効果的なブランドコミュニケーションを行い、個別の領域の価値を個々に高めるのではなく、全てに共通するベースとなる価値 (ResorTech Okinawa) として、認知度向上を図っている。

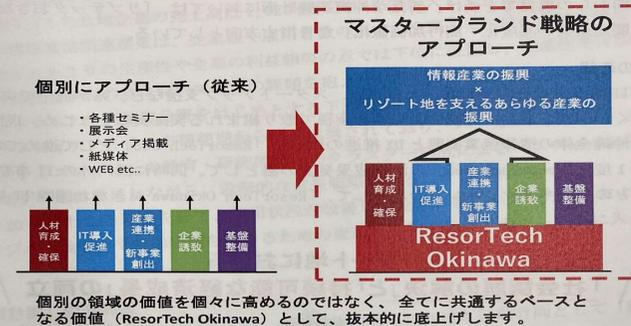


図2 ResorTech の認知を図るマスターブランド戦略

さらに、「ビジョンステートメント」に掲げる未来の実現に向け、「ResorTech Okinawa」の取組によって、あらゆる産業とテクノロジーを結びつけることで、働く人々・暮らす人々・訪れる人々、そして、社会全体へと波及効果の拡大を図る。

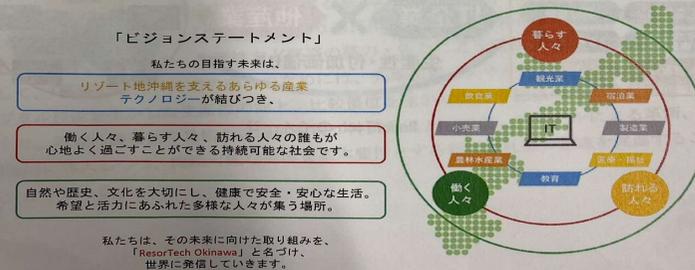


図3 「ResorTech Okinawa」の波及イメージ

ResorTech未来予想図を今一度

ありがとうございました。